

甲賀市城跡探訪マップ

歴史舞台を巡る



発行：甲賀市教育委員会事務局歴史文化財課
528-8502 滋賀県甲賀市水口町水口6053
TEL：0748-69-2250 FAX:0748-69-2293
令和6年10月1日 発行

甲賀武士の城 甲賀郡中惣遺跡群

寺前城跡・村雨城跡・新宮城跡・新宮支城跡・竹中城跡



甲賀郡の中惣は、同名という自治組織によって治められていました。同名中は血縁の同族を中心に、惣領家（本家）とその他の庶子家（分家）が対等な立場で、話し合いによる合議によって宛を定めて地域支配を行った自治組織です。同名中を基礎として近隣の同名中間でも結合し、さらに広域的に組織されたものを郡中惣と呼びます。郡中惣は永禄年間（1558年～1570年）に、織田信長の近江侵攻という軍事的な緊張を背景に組織されたと考えられています。

市内には、この郡中惣を組織した土豪・地侍によって築かれた城跡が、数多く残されています。城は一辺50m四方の単郭方形を基本とし、高い土塁や深い堀を備えています。

甲南町杉谷・新治に所在する、寺前城跡・村雨城跡・新宮城跡・新宮支城跡・竹中城跡は、同名もしくは郡中惣によって築かれた城と考えられており、土豪・地侍たちによる話し合いの場であった、矢川神社・油日神社と合わせて「甲賀郡中惣遺跡群」として国の史跡に指定されています。

アクセス
 新宮城跡・新宮支城跡 JR甲南駅から徒歩約30分
 寺前城跡・村雨城跡 JR甲南駅から徒歩35分
 竹中城跡 JR甲南駅から徒歩約25分

和田惟政と和田城館群

和田城跡・公方屋敷跡

和田氏は室町時代に甲賀郡の和田地域を支配した土豪で、近江国守護六角氏の家臣として勢力を伸ばした、有力な一族のひとつです。和田氏の本拠地である甲賀町和泉は、7つの城館が築かれ、それぞれの城が連携して和田谷全体を守っていたと考えられます。

この和田谷の最奥部にあるのが和田城跡です。和田城跡は一辺50mの主郭を持ち、高さ7mの土塁や、幅10m、深さ7mの巨大な堀切によって、敵の侵入を防ぎます。また、複雑な構造を持つことから和田の城館の中でも中心的な城であったと考えられます。

和田一族の中でもよく知られた人物に、戦国期の武将和田惟政がいます。惟政は室町幕府に奉公衆として仕えており、永禄8年（1565年）に13代将軍足利義輝が暗殺された時には、その弟で大和興福寺にいた一乗院覚庵（後の足利義昭）を救出させ、自らの屋敷に匿しました。この屋敷は現在の公方屋敷跡と推定されています。公方屋敷跡には、和田惟政の供養塔と伝わる五輪塔があり、地元有志によって大切に守られています。

アクセス
 和田城跡 JR油日駅から徒歩約20分 駐車場あり
 公方屋敷跡 JR油日駅から徒歩約15分

多羅尾氏と城

小川城跡・多羅尾代官陣屋跡

多羅尾氏は、信楽郡の東部に位置する多羅尾を本拠とした土豪です。戦国時代には信楽一帯を支配しており、信楽町小川に所在する小川城跡は、多羅尾氏が城主であったと考えられています。小川城跡は標高470mの通称「城山」の山頂に築かれており、多羅尾氏方面から伊賀へと抜ける街道筋を含む信楽谷のほぼ半半を眼下に取ることが出来ます。発掘調査によって、主郭内部に礎石建物が建っていたことが明らかとなったほか、多数の土器・陶器片、鉄釘など16世紀後半の遺物が出土しました。

多羅尾氏はいわゆる「神君伊賀越え」で徳川家康と深い関わりを持ちます。この時、多羅尾光俊は家康に食事をふるまい、伊賀国の柵橋まで警護を務めたとされます（『寛政重修諸家譜』）。実際に家康がどこで休んだのか諸説あり不明ですが、この伊賀越えにおける熱功によって、多羅尾氏は江戸時代を通して、当時としては異例の世襲代官として信楽地域を支配していました。

多羅尾代官陣屋跡は、江戸時代を通して多羅尾氏の居所としてだけでなく、代官としての執務を行う場として機能しました。当時の建物は現存していませんが、広大な平坦面や、江戸時代後期に整備されたと考えられる庭園や石垣などが残されています。

アクセス
 小川城跡 信楽高原鉄道信楽駅からコミュニティバス小川川下車、登山口まで徒歩約20分（バスの本数が少ないので要確認）
 多羅尾代官陣屋跡 信楽高原鉄道信楽駅からコミュニティバス多羅尾上下下車、徒歩すぐ（バスの本数が少ないので要確認）駐車場あり



城跡の概要図やその他詳しい情報は、『甲賀市史』第7巻をご覧ください。

参考文献
 『甲賀市史』第2巻 甲賀衆の中世（平成24年）
 『甲賀市史』第7巻 甲賀の城（平成22年）
 『水口岡山城跡発掘調査報告書』（平成28年）

QRコードとリンク情報

甲賀市史第7巻 甲賀の城

秀吉と土山の城

土山城跡・黒川氏城跡

天下統一を目指した豊臣秀吉は、甲賀郡を重要視していたことが城跡から見えます。天正12年（1584年）に秀吉と織田信雄・徳川家康が対した小牧・長久手の戦いでは、甲賀郡は戦場である伊勢・尾張への進軍路にあたり、鈴鹿峠を控えた当地は軍事拠点のひとつとなりました。

秀吉は羽柴秀長を土上に布陣させ、甲賀から伊勢に向けて3つの城を設け、秀吉の直臣を陣取らせるとともに、秀吉自身もたびたび土山に着陣しています。

土山町北土山に所在する土山城跡は、単郭方形の主郭に角周出状の虎口を備え、甲賀の城の中でも発達した機能を持つ城です。土山城は、甲賀の典型的な構造の城を秀吉軍が改修したと考えられており、小牧・長久手の戦いで秀吉軍が軍事拠点とした可能性があります。

この他に、土山町鮎河には市内では水口岡山城跡に次ぐ大規模な城跡である黒川氏城跡があります。黒川氏は、甲賀から鈴鹿山脈を越えて伊勢に抜ける重要なルート上にあり、城主は土豪の黒川氏であったと伝えられています。主郭は甲賀の典型的な方形ですが、石階段や主郭内部に「藤木」を用い、虎口周辺には石垣が築かれており、甲賀の城ではあまり例がない近世城郭の特徴を持つ城です。

アクセス
 土山城跡 JR貴生川駅からコミュニティバス近江土山下車徒歩約10分
 黒川氏城跡 JR貴生川駅からコミュニティバス鮎河下車徒歩約10分（バスの本数が少ないので要確認）

東海道の拠点城郭 水口岡山城跡

水口岡山城跡

天正13年（1585年）、秀吉方として参戦した甲賀の武士たちは、紀伊太田城水攻めでの失策をとりめられ、武士の身分をなく辱、領地から追放されました。この出来事は「甲賀ゆれ」と呼ばれ、同名中・郡中惣による地域支配は終焉を迎え、豊臣政権による支配へと体制が変わりました。

そして、豊臣秀吉の家臣である中村一氏によって、新たな支配拠点である水口岡山城が独立丘陵「古城山」に築かれました。山頂からは水口平野をはじめ、湖北や湖西の山々とともに琵琶湖を眺めることができます。眼下を通る東海道を押さえ、東には鈴鹿峠を領有古城山は、城を築く場所としても良い条件の山でした。

城主は一兵の一のあと増田長盛、長束正家といった重臣が入っており、豊臣政権のなかでも重要な城であったと考えられます。

水口岡山城には、本丸に二つの櫓台がありました。西櫓台の発掘調査では、甲賀衆の合謀の場でもあった矢川神社の神宮寺「矢川寺」の瓦が出土し、城に転用されたことがわかりました。また、本丸南斜面では崩れた水口岡山城を確認しており、本丸周辺は礎石垣だったと推定されています。

甲賀衆が築いた戦国時代の城は土づくりの城でしたが、水口岡山城は石垣を築き、瓦葺建物を備えた。これまでの甲賀にはなかった新しい形態の城でした。水口岡山城の登場は、当時の甲賀の人々に大きな衝撃を与え、統一政権による支配という新たな時代の到来を視覚的に示したと考えられます。

アクセス
 近江鉄道水口駅から徒歩約10分 山頂まで徒歩約20分
 観光駐車場あり

徳川将軍の城 水口城跡

水口城跡 乾堀石垣

寛永11年（1634年）、江戸幕府3代将軍徳川家光は大軍を率いて上洛します。この時に、将軍の宿館として水口城が築かれました。作事奉行は小堀政一（遠州）が務め、幕府京都大工頭中正純のもと、のべ10万人の大工が動員されたといわれています。

水口城の構造は、本丸が約120m四方の方形区画に、東側に外枡形を持ち、周囲は石垣と水堀で囲まれています。また、本丸の北側には二の丸が配置されました。本丸には天守はないものの殿舎が建ち並び、四隅には櫓、土塼の上には堀、多門櫓などが建てられました。

築城当初は、本丸には将軍が用いる御座の間、御学、御休憩所といった建物があり、将軍の宿館としてみごわしいものでした。しかし、家光は毎路の寛永11年8月6日に一泊したのみで、その後は1000石から2万石クラスの旗本・大名を城番にあて、管理されていました。

天和2年（1682年）に加藤貞友が入部、水口藩が成立します。城も加藤氏に引き渡され、二の丸に居る藩主と藩庁を置きました。本丸は将軍の宿館であったことから、加藤氏は遠慮して使用しませんでした。

徳川将軍の宿館として贅を尽くした水口城でしたが、正徳3年（1713年）に本丸は堀・櫓・門・橋・石垣を除き、御殿は撤去されました。明治時代に入り廃城となり、現在では本丸跡は国立水口高等学校のグラウンドとなっています。平成3年には櫓を模した水口城資料館が開館し、水口城や水口藩に関する史資料のほか、市内で発掘された城跡の出土品を展示しています。

アクセス
 近江鉄道水口城駅から徒歩約5分
 駐車場 水口城南駅駐車場もしくはあいこう市民ホール東側駐車場

甲賀市 城跡探訪マップ

Koka Exploring Castle Ruins MAP



凡例	
	高速道路
	有料道路
	国道
	主要地方道
	一般道
	低規格道路
	J 河川
	海運道
	城跡
	役所/役場
	神社
	学校
	消防署
	警察署/交番
	病院/薬局
	多羅尾代官陣屋跡

1:75,000

